

地域再生計画の様式の簡素化後の記載例

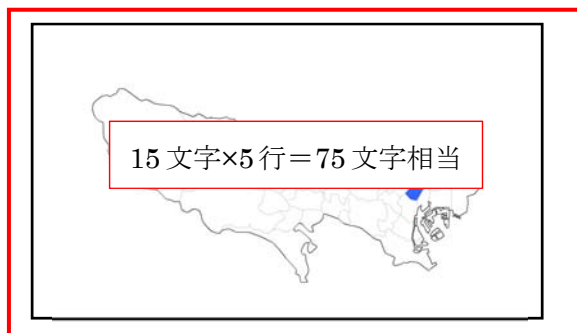
今回の簡素化により地域再生計画の記載量が約3分の1減
(約4,200字→約2,800字)

〇〇町森林資源活用プロジェクト

簡素化前	簡素化後
<p>地域再生計画</p> <p>1 地域再生計画の名称 〇〇町森林資源活用プロジェクト</p> <p>2 地域再生計画の作成主体の名称 〇〇県〇〇郡〇〇町</p> <p>3 地域再生計画の区域 〇〇県〇〇郡〇〇町の全域</p> <p>4 地域再生計画の目標 4-1 地域の現状</p>	<p>地域再生計画</p> <p>1 地域再生計画の名称 〇〇町森林資源活用プロジェクト</p> <p>2 地域再生計画の作成主体の名称 〇〇県〇〇郡〇〇町</p> <p>3 地域再生計画の区域 〇〇県〇〇郡〇〇町の全域</p> <p>4 地域再生計画の目標 4-1 地域の現状</p>

【地理的及び自然的特性】

〇〇町は、〇〇県の山間部、〇〇市の北西に位置する町である。本町の〇%は森林区域であり、中心部を〇〇川が流れるなど、豊かな自然環境に恵まれている。



【産業】

本町は、江戸時代から〇〇川の水運を利用してスギ等の木材を建築用資材として出荷し、最盛期の昭和〇年代には町民の約〇割である〇人が林業を含む木材関連産業に従事する等、林業を基幹産業として発展してきた。しかしながら、平成〇年代以降、輸入木材の台頭・後継者不足により林業は衰退し、平成〇年における木材出荷量は昭和〇年の〇割程度にとどまる。

【人口】

本町の人口は、〇年の〇人をピークに減少が続いており、直近の国勢調査（平成〇年実施）では〇人まで落ち込んでいる。国立社会保障・人口問題研究所によると、現状のペースでは、平成〇年には昭和〇年比で総人口が約〇%減、生産年齢人口では〇%減

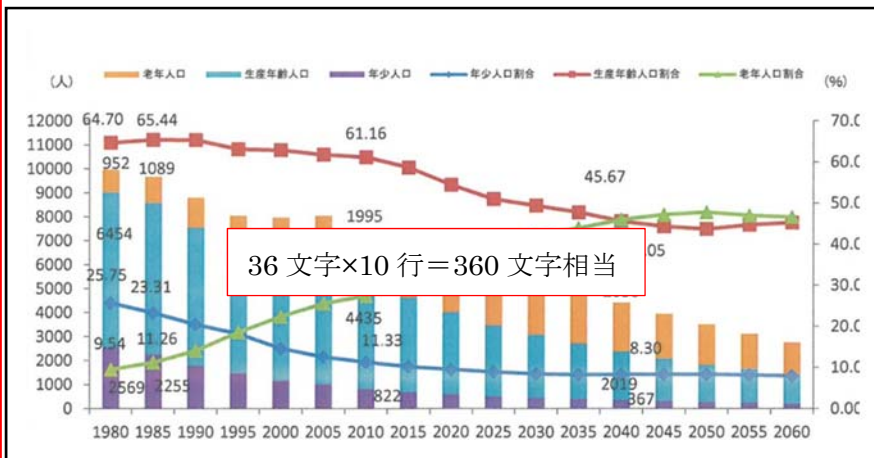
〇〇町は、〇〇県の山間部、〇〇市の北西に位置する町である。本町の〇%は森林区域であり、中心部を〇〇川が流れるなど、豊かな自然環境に恵まれている。

この地理的・自然的特性を活かし、本町は、江戸時代から〇〇川の水運を利用してスギ等の木材を建築用資材として出荷し、最盛期の〇年代には町民の約〇割である〇人が林業を含む木材関連産業に従事する等、林業を基幹産業として発展してきた。しかしながら、〇年代以降、輸入木材の台頭・後継者不足により林業は衰退し、〇年における木材出荷量は〇年の〇割程度にとどまる。

林業の衰退に伴い、本町の人口も〇年の〇人をピークに減少が続いており、直近の国勢調査（〇年実施）では〇人まで落ち込んでいる。国立社会保障・人口問題研究所によると、現状のペースでは、〇年には 〇年比で総人口が約〇%減、生産年齢人口では〇%減となる見込みである。

となる見込みである。([図1]参照)。

[図1] ○町人口推移



出典：総務省「国勢調査」(平成○年)

国立社会保障・人口問題研究所「地域将来推計人口」

(平成○年)

4-2 地域の課題

本町の人口は、4-1記載のとおり、現在ではピーク時の昭和○年の人口の約○割となっており、このまま人口減少が進行した場合は、町内経済の衰退が懸念されている。人口の減少は、本町の基幹産業である林業の衰退に伴い、本町内の雇用の機会が減少したことで、若者の町外への流出(社会減)が進んだことが原因と考えられる。若者の雇用機会を創出し、生産年齢人口減少を食い止め、ひいては

4-2 地域の課題

本町の人口は、4-1記載のとおり、現在ではピーク時の○年の人口の約○割となっており、このまま人口減少が進行した場合は、町内経済の衰退が懸念されている。人口の減少は、本町の基幹産業である林業の衰退に伴い、本町内の雇用の機会が減少したことで、若者の町外への流出(社会減)が進んだことが原因と考えられる。若者の雇用機会を創出し、生産年齢人口減少を食い止め、ひいては

ては町内経済の衰退を防止することが、本町の課題である。

4-3 目標

【概要】

4-2に記載した課題に対応するため、本町の豊かな森林資源を活用し、『体験型森林ツーリズム事業』及び『木材製品の付加価値向上及び新規販路の開拓事業』を一体的なプロジェクトとして実施することで、町内経済の活性化と雇用機会の創出を実現する。あわせて、U I Jターンにより本町に移住する若者に対して補助金を交付することで生産年齢人口の転入超過（社会増）を促進し、人口減少に歯止めをかけることを目標とする。

【数値目標】

事業の名称	体験型森林ツーリズム事業	木材製品の付加価値向上及び新規販路の開拓事業	基準年月
K P I	森林ツーリズム参加観光客数	木材製品出荷額	
申請時	0人	1億円	平成31年3月
平成31年度	1,000人	1億1,000万円	平成32年3月
平成32年度	4,000人	1億2,000万円	平成33年3月
平成33年度	8,000人	1億5,000万円	平成34年3月

町内経済の衰退を防止することが、本町の課題である。

4-3 目標

【概要】

4-2に記載した課題に対応するため、本町の豊かな森林資源を活用し、『体験型森林ツーリズム事業』及び『木材製品の付加価値向上及び新規販路の開拓事業』を一体的なプロジェクトとして実施することで、町内経済の活性化と雇用機会の創出を実現する。あわせて、U I Jターンにより本町に移住する若者に対して補助金を交付することで生産年齢人口の転入超過（社会増）を促進し、人口減少に歯止めをかけることを目標とする。

【数値目標】

事業の名称	体験型森林ツーリズム事業	木材製品の付加価値向上及び新規販路の開拓事業	基準年月
K P I	森林ツーリズム参加観光客数	木材製品出荷額	
申請時	0人	1億円	2019年3月
2019年度	1,000人	1億1,000万円	2020年3月
2020年度	4,000人	1億2,000万円	2021年3月
2021年度	8,000人	1億5,000万円	2022年3月

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

本町は、山間部に所在しており、林業を基幹産業としてきた。しかしながら、平成〇年代以後は、輸入木材の台頭等により、林業が衰退したことで雇用の機会が減少し、生産年齢人口の流出が続いてきた。このまま人口減少が進むと、平成〇年には、本町の人口は昭和〇年比で約〇%減となる見込みである。本町の豊かな森林資源を活用し、『体験型森林ツーリズム事業』及び『木材製品の付加価値向上及び新規販路の開拓事業』を一体的なプロジェクトとして実施することで、町内経済の活性化と雇用機会の創出を実現し、あわせてU I Jターンにより本町に移住する若者に対して補助金を交付することで生産年齢人口の転入超過（社会増）を促進し、人口減少に歯止めをかけることを目標とする。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

森林資源活用プロジェクト

ア 体験型森林ツーリズム事業

イ 木材製品の付加価値向上及び新規販路の開拓事業

② 事業区分

農林水産業の振興

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

森林資源活用プロジェクト

ア 体験型森林ツーリズム事業

イ 木材製品の付加価値向上及び新規販路の開拓事業

② 事業区分

農林水産業の振興

③ 事業の目的及び内容

【目的】

本町は、山間部に所在しており、林業を基幹産業としてきた。しかしながら、平成〇年代以後は、輸入木材の台頭等により、林業が衰退したことで雇用の機会が減少し、生産年齢人口の流出が続いてきた。このまま人口減少が進むと、平成〇年には本町の人口は昭和〇年比で約〇%減となる見込みである。本町の豊かな森林資源を活用し、『体験型森林ツーリズム事業』及び『木材製品の付加価値向上及び新規販路の開拓事業』を一体的なプロジェクトとして実施することで、町内経済の活性化と雇用機会の創出を実現し、これに伴い生産年齢人口を転入超過（社会増）とすることで、人口減少に歯止めをかけることを目的とする。

【事業の概要】

ア 体験型森林ツーリズム事業

本町と林業組合、林業事業者が共同して、町内在住の林業従事者が体験型の森林ツーリズム（トレッキングや間伐体験等）のガイドを行う事業を実施する。この事業により、林業従事者の雇用の場の拡大と町内事業者の観光収入の増加を図る。

イ 木材製品の付加価値向上及び新規販路の開拓事業

これまで建築用資材としてのみ活用されていた森林資源について、新たに木質バイオマスチップとして加工するこ

③ 事業の内容

【事業の概要】

ア 体験型森林ツーリズム事業

本町と林業組合、林業事業者が共同して、町内在住の林業従事者が体験型の森林ツーリズム（トレッキングや間伐体験等）のガイドを行う事業を実施する。この事業により、林業従事者の雇用の場の拡大と町内事業者の観光収入の増加を図る。

イ 木材製品の付加価値向上及び新規販路の開拓事業

これまで建築用資材としてのみ活用されていた森林資源について、新たに木質バイオマスチップとして加工するこ

とができるよう、近隣市や町内の事業者とともに、製品開発を行う。開発した木質バイオマスチップについては、近隣市と町内事業者が主体となって設立する新会社（町も一部出資）が生産し、大都市圏の事業者に販売していくことになるので、町としてこれを資金面で後押ししていく。

この事業により、町に新たな産業を生み出すことで、町内生産額を増加させ、町内経済を活性化するとともに、雇用の場の拡大を図る。

【各年度の事業の内容】

ア 体験型森林ツーリズム事業

（平成31年度）

森林ツアーのルートや体験事業のコンテンツについて検討し、モニターツアーを5回実施する。あわせて、大都市圏の住民に対してモニターツアーのPRを実施する。

イ 木材製品の付加価値向上及び新規販路の開拓事業

（平成31年度）

製品開発の主体となる会社を事業者とともに設立。製品開発を開始。

④ 地方版総合戦略における位置付け

本町のまち・ひと・しごと創生総合戦略においては、森林資源を活用した交流人口拡大施策と木材製品の出荷促進施策を定

とができるよう、近隣市と町内事業者が主体となって設立する新会社（町も一部出資）が行う製品開発を支援する。

この事業により、町に新たな産業を生み出すことで、町内生産額を増加させ、町内経済を活性化するとともに、雇用の場の拡大を図る。

【年度ごとの事業の内容】

ア 体験型森林ツーリズム事業

（2019年度）

〇〇山のトレッキングルートの整備工事を実施するとともに、〇〇山における森林ツアーを実施する。首都圏で地方創生に関連するイベントに参加し、森林ツアーを実施していることをPRする。

イ 木材製品の付加価値向上及び新規販路の開拓事業

（2019年度）

主体となる会社を事業者とともに設立。製品開発を開始。

④ 地方版総合戦略における位置付け

本町のまち・ひと・しごと創生総合戦略においては、森林資源を活用した交流人口拡大施策と木材製品の出荷促進施策を定

めており、「森林保全・活用プロジェクト」は、これらを総合的に実施する事業である。また総合戦略の基本目標として、年間観光入込客数（現状5,000人→平成33年度30,000人）、町内総生産額（現状50億円→平成33年度80億円）を定めており、本プロジェクトは、まさにこの目標の達成に直接寄与するものである。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標
（重要業績評価指標（KPI））

事業の名称	体験型森林ツーリズム事業	木材製品の付加価値向上及び新規販路の開拓事業	年月
KPI	森林ツーリズム参加観光客数	木材製品出荷額	
申請時	0人	1億円	平成31年3月
平成31年度	1,000人	1億1,000万円	平成32年3月

めており、「森林保全・活用プロジェクト」は、これらを総合的に実施する事業である。また総合戦略の基本目標として、年間観光入込客数（現状5,000人→2022年度30,000人）、町内総生産額（現状50億円→2022年度80億円）を定めており、本プロジェクトは、まさにこの目標の達成に直接寄与するものである。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標
（重要業績評価指標（KPI））

事業の名称	体験型森林ツーリズム事業	木材製品の付加価値向上及び新規販路の開拓事業	年月
KPI	森林ツーリズム参加観光客数	木材製品出荷額	
申請時	0人	1億円	2019年3月
2019年度	1,000人	1億1,000万円	2020年3月

⑥ 事業費

ア 体験型森林ツーリズム事業

(単位：千円)

事業費の区分	事業費の額	
	平成31年度	計
委託料	9,500	9,500
使用料	1,000	1,000
工事請負費	27,500	27,500
需用費	1,700	1,700
役務費	3,300	3,300
事業費計	43,000	43,000

イ 木材製品の付加価値向上及び新規販路の開拓事業

(単位：千円)

事業費の区分	事業費の額	
	平成31年度	計
委託料	15,000	15,000
使用料	10,000	10,000
工事請負費	5,000	5,000
需用費	9,000	9,000
役務費	4,000	4,000
事業費計	43,000	43,000

⑥ 事業費

ア 体験型森林ツーリズム事業

(単位：千円)

事業費の額	
2019年度	計
43,000	43,000

イ 木材製品の付加価値向上及び新規販路の開拓事業

(単位：千円)

事業費の額	
2019年度	計
43,000	43,000

⑦ 申請時点の寄附の見込み (単位：千円)

寄附法人名	寄附の見込額	
	平成 31 年度	計
株式会社〇〇	20,000	20,000
製造業	100	100
サービス業	100	100
計	20,200	20,200

⑧ 事業の評価の方法 (P D C A サイクル)

【評価の手法】

事業のK P Iである森林ツーリズム参加観光客数及び木材製品出荷額について、実績値を公表する。また、当町の総合戦略策定委員 (△×銀行〇〇支店役員、○●大学教授) により、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

【評価の時期及び内容】

毎年度〇月に外部有識者 (総合戦略策定委員) による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。

【公表の方法】

目標の達成状況については、検証後速やかに〇〇町公式WEBサイト上で公表する。

⑨ 事業実施期間

平成31年4月～平成32年3月31日まで

⑦ 申請時点の寄附の見込み (単位：千円)

寄附法人名	寄附の見込額	
	2019 年度	計
株式会社〇〇	20,000	20,000
製造業	100	100
—	100	100
計	20,200	20,200

⑧ 事業の評価の方法 (P D C A サイクル)

【評価の手法】

事業のK P Iである森林ツーリズム参加観光客数及び木材製品出荷額について、実績値を公表する。また、当町の総合戦略策定委員 (△×銀行〇〇支店役員、○●大学教授) により、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

【評価の時期及び内容】

毎年度〇月に外部有識者 (総合戦略策定委員) による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。

【公表の方法】

目標の達成状況については、検証後速やかに〇〇町公式WEBサイト上で公表する。

⑨ 事業実施期間

2019年4月から2020年3月まで

<p>5-3 その他の事業</p> <p>5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置 該当なし</p> <p>5-3-2 支援措置によらない独自の取組</p> <p>(1) 若者移住定住促進補助金事業</p> <p>① 事業概要 U I J ターンにより本町に移住する若者に対して補助金を交付することで、生産年齢人口の転入超過（社会増）を促進し、人口減少に歯止めをかけることを目標とする。</p> <p>② 事業実施主体 〇〇県〇〇郡〇〇町</p> <p>③ 事業実施期間 平成31年4月1日から平成34年3月31日まで</p> <p>6 計画期間 地域再生計画の認定の日から平成34年3月31日まで</p> <p>7 目標の達成状況に係る評価に関する事項</p> <p>7-1 目標の達成状況に係る評価の手法 4に掲げるK P Iである森林ツーリズム参加観光客数及び木材製品出荷額について、実績値を公表する。また、当町の総合戦略策定委員（△×銀行〇〇支店役員、○●大学教授）により、事業の結果</p>	<p>5-3 その他の事業</p> <p>5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置 該当なし</p> <p>5-3-2 支援措置によらない独自の取組</p> <p>(1) 若者移住定住促進補助金事業</p> <p>① 事業概要 U I J ターンにより本町に移住する若者に対して補助金を交付することで、生産年齢人口の転入超過（社会増）を促進し、人口減少に歯止めをかけることを目標とする。</p> <p>② 事業実施主体 〇〇県〇〇郡〇〇町</p> <p>③ 事業実施期間 2019年4月1日から2022年3月31日まで</p> <p>6 計画期間 地域再生計画の認定の日から2022年3月31日まで</p> <p>7 目標の達成状況に係る評価に関する事項</p> <p>7-1 目標の達成状況に係る評価の手法 5-2の⑧に掲げる【評価の手法】に同じ。</p>
--	---

<p>を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。</p> <p>7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容 毎年度〇月に外部有識者（総合戦略策定委員）による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。</p> <p>7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法 目標の達成状況については、検証後速やかに〇〇町公式WEBサイト上で公表する。</p> <p>3791字（図表文字換算後：4226字）</p>	<p>7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容 4-3の目標について、5-2の⑧に掲げる【評価の時期及び内容】に同じ。</p> <p>7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法 5-2の⑧に掲げる【公表の方法】に同じ。</p> <p>2775文字</p>
---	--